

第57回国立大学法人筑波技術大学経営協議会議事要旨

I 日 時 平成28年11月18日（金）14:00～15:40

II 場 所 天久保キャンパス管理棟大会議室

III 出席者等

- ・出席者 石塚和重、石原保志、大越教夫（議長）、川村恒明、北原保雄、小山哲夫、
宍戸和成、菅野映之、須藤正彦、宅 清光、谷川彰英、内藤一郎、廣瀬 寛
（五十音順・職名略）
- ・欠席者 石野富志三郎、関 正夫、竹下義樹
- ・陪席者 大島愼子監事、竹内啓博監事
- ・事務局 工藤総務課長、佐藤財務課長、山田聴覚障害系支援課長、高瀬視覚障害系支援課
長、木村財務課課長補佐

IV 議 事

1 前回議事要旨の確認について

議長から、資料1に基づき説明があり、原案どおり確認された。

2 審議事項

(1) 平成28年人事院勧告の対応について

事務局から資料2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

(2) 平成28年度大学運営経費予算の補正について

事務局から資料3-1～2に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

(主な質疑応答)

○収入欄の「4 その他収入」の「(3) 雑収入」について、主な増減事由として「⑤間接経費収入の減」とあるが、科学研究費補助金の間接経費を指しているのか。

●そのとおりである。今年度の科学研究費補助金は、当初の見込みに届かなかった。

○支出欄の「2 物件費（基盤的経費）」の「(2) 教育経費」について、主な増減事由として「①研修生受入人数増加に伴う研修経費の増」とあるが、この研修生について具体的に教えてほしい。

●保健科学部附属東西医学統合医療センターで受け入れている研修生である。

○現在、研修生は何人程度受け入れているのか。

●現在、16名の研修生を受け入れている。

○本学の収入の内訳をみると、やはり「3 附属診療所収入」を増やしていくことが重要なのではないか。

●本学にとって附属診療所収入は、自助努力で増やせる収入であり、重要性は認識している。現在、リハビリテーション部門の収入が伸びてきているが、それ以外にも新しい領域を開拓する等して、引き続き努力をしていきたい。

(3) 第2期中期目標期間から繰り越された積立金の使途について

事務局から資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

3 報告事項

(1) 平成27年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

事務局から、資料5-1～5に基づき説明があった。

(主な質疑応答)

○項目別評価における「(1) 業務運営の改善及び効率化」について、「おおむね順調」という評価を言葉どおりに受け取るのではなく、低い評価として認識する必要がある。資料5-2の1頁にこのような評価を受けたのは14法人あるが、その内訳を教えてください。

●資料5-2の13頁の「課題」とされる事項に挙げられている法人が「おおむね順調」以下の低い評価を受けているものと考えている。

(2) 国立大学法人等が実施する学生等への修学支援事業に対する個人寄附の税額控除に係る証明書について

事務局から、資料6に基づき説明があった。

(3) 平成29年度推薦入試及び社会人入試の実施状況について

事務局から、資料7-1～4に基づき説明があった。

○保健科学部の推薦入試において、一般校からの出願が増えている一方で、特別支援学校からの出願は1人だった。このような傾向は入学後にどのような影響があるのか。

●一般校の出願が増えたことによる教育上の影響はないと考えている。

○保健科学部の推薦入試と社会人入試では、面接と小論文による試験が行われており、英語や数学等の筆記試験を課していないが、学力的な問題はないのか。

●昨年度の国家試験合格状況において、鍼灸学専攻では全国平均よりも低かったが、理学療法学専攻では100%だった。学生の学力は過去と比較し低いわけではない。また、一般校出身の学生と特別支援学校出身の学生で学力の差はないと考えている。小論文と面接による推薦入試及び社会人入試の合格者も、入学後の教育により、国家試験に合格できる学力を身に付けていると考えている。

○盲学校等の卒業生が、社会福祉系の大学に進学しているとの説明があったが、それは今年に限ったものではなく、ここ数年間の傾向なのか。

●「関東・甲信越地区盲学校・養成施設卒業生進路実態調査」によると、ここ10年間、社会福祉系の大学等への進学が増加している。

○視覚障害学生が介護福祉士等の資格を取り、介護福祉の現場で働けるものなのか。視覚障害学生の社会福祉系への大学進学が増加しているのであれば、そのような社会のニーズを受けて、本学においても教育組織の改組も考えたほうがいいのか。

●介護福祉系の大学に進学しているのは、本学の理学療法学専攻と同様に、弱視の学生が多いと考えている。社会福祉系の領域単独ではなく、例えば、あん摩マッサージ等との複合領域としての設置を検討する等、保健科学部内で検討していきたい。

(4) 平成29年度大学院技術科学研究科入試実施状況について

事務局から、資料8-1～2に基づき説明があった。

(主な質疑応答)

○優秀な在校生に対して、大学院への学内進学を勧める等、学内に向けてどのような学生募集活動が行っているのか。

●進学を希望する在校生に対しては、他大学も含めて大学院への進学を勧めている。

(5) 平成28年度経営協議会学外委員からいただいた意見の反映状況について議長から、資料9に基づき説明があった。

以 上